

## 令和4年度 学校評価シート

学校名：県立那賀高等学校

校長名：森 勝博

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

「自ら学び鍛える那高生」・「地域に貢献する那高生」の体現化

・授業・特別活動・部活動・学校行事・校外学習など、すべての教育活動での学習を通して

- ① 知的探究心を鍛え、自ら学び鍛える生徒の育成
  - ② 確かな学力や社会性・協調性を身に付け、将来医療・看護・教育・行政・語学等の分野において地域社会に貢献できる生徒の育成
- ・交換留学や国際交流活動等を通して国際的視野を養い将来国際的な分野で活躍できる生徒やグローバルな国際感覚を養い将来語学等を活かした幅広い国際的な分野で活躍できる生徒の育成

## 学校評価の公表方法

- ・学校運営協議会で協議
- ・学校ホームページ等により公表

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（3月20日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	今年度の年間指導計画と過去3年間の授業時数を基に、今年度の指導計画の立案・実行	B	① 時間割上の工夫	すべて実績による	A	計画していた時間数を十分確保できた。	次年度はいよいよコロナ禍も緩和され、従来の形を踏襲しながら、さらにICTを活用した実践に取り組んでいく。
			② 学校行事の精選	すべて実績による	A	コロナ禍の中、概ね学校行事を実施することができた。	
			③ 長期休業期間の活かし方	すべて実績による	B	コロナ禍の感染状況から、主にICTを活用した取組とした	
2	昨年度の進路実績等の状況を参考に、3年生の進路実現に向けた取組を実践	B	① 5分掌間での情報共有	すべて実績による	B	それぞれ連携を取り合って、分掌業務を推進した。	生徒それぞれが振り返り『メタ認知』を行いながら、自らの進路目標を明確にし、より一層高みを目指すキャリア教育を実践していく。
			② 学年主任会や学年別の担任会を設定し情報共有	すべて実績による	A	週1回開催する各学年担任会を活用できた。	
			③ 進路ガイダンス、進路ホームルームの活用	すべて実績による	B	進路指導部中心に各行事を開催し、実行できた。	
3	令和2年度より分掌再編した中で、「チーム」と「リスペクト」を意識した学校運営の実施	C	① 縦軸となる学年ごとの達成目標がなされているか。	教職員の働き方改革に寄与するものとなっているか	B	各学年の達成目標に向けて、概ね実施することができた。	分掌から発信し、学年が実践する意識を定着させ、情報共有をした上で、学校運営に取り組めるしくみ作りを構築していく。
			② 横軸となる分掌の達成目標がなされているか。	教職員の働き方改革に寄与するものとなっているか	B	各分掌の達成目標に向けて、概ね実施することができた。	
			③ 学年(縦軸)と分掌(横軸)との連携が図れているか	教職員の働き方改革に寄与するものとなっているか	C	縦軸と横軸との連携にはまだまだ開拓に余地がある。	
4	学校創立100周年記念式典の実施	C	① 100周年実行委員会と連携して取り組む	すべて実績による	A	実行委員会を中心に記念式典を成功させることができた。	100周年を機に、同窓会、PTAとの連携を深めて、次の1世紀を目指していく。
			② 校内体制を活かし生徒にも実感できる取組を推進する	すべて実績による	A	生徒と教職員が一体となって取り組むことができた。	
			③ 学校行事とのつながりを持つ	すべて実績による	A	那高祭文化祭・体育祭との連携を図ることができた。	

## 学校関係者評価（3月20日実施）

- ア 令和4年度和歌山県立那賀高等学校運営方針
- ・コロナ禍の中での行事の実施は大変であったのではないかと。良い取組ができたと思う。
  - ・昨年度卒業の生徒たちから羨ましいほどの今年度の取組であった。
- イ 令和4年度キャリア教育支援授業の実施状況
- ・「自ら学び鍛える那高生」の気持ちが本日の取組から伝わってきた。学校行事が生徒たちにリズムを与えていることが、生徒たちの発言から伝わってきた。
  - ・将来について生徒たちがしっかり考えていることに気づいた。傍聴していた生徒たちも、代表生徒の意見を聞くことによって、自分のことについて考え直す機会が持てて良かった。素晴らしい時間であった。会長が上手に生徒の意見を引き出してくれた。
  - ・最上級生になった今日のタイミングが良かった。考え直せる時期であった。
  - ・那賀高校の教育が安定の時期に入ったのではないかと。自分たちにとって行事が大切であると生徒が気づいてきたのではないかと。
  - ・進むべき道が教員や生徒が共有できてきているように感じた。
- ウ 令和5年度本校学校運営協議会が主催する事業
- ・次年度のメンバーに振興局の方を入れてはどうか。運営協議会は評論家の組織ではないから、委員も一緒になって動いていかなくてはいけない。そういった意味でも振興局に入ってもらうのが適当である。